

2024年度第5回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会 議事録

1 日時：2024年8月7日（水）午後8時00分から

2 方法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡

欠席者：保坂一房

事務局員の参加：鬼倉正敏

4 議事

(1) 第1号議案 会員の動向について

【報告】

- ・8月7日（本日）現在
- ・正会員：個人77、団体2（計79） ・賛助会員：個人27、団体2（計29）
合計：個人104、団体4（総合計108名・団体）
- ・前々回の理事会時（5月21日）から変化はない。
※なお今年度の会費の入金と共に、今年度限りでの退会を申し出られた賛助会員が1名あった。

(2) 第2号議案 前回理事会から今日までの活動経過

【報告】

- ・事務局から、前回理事会（6月18日）以降の活動を報告する。
- ① 館長協議会の会長への挨拶
- ・毎年、年度初めに館長協議会の三役に挨拶に伺っている。今年度は三役会は特に行わないとのことだったので、7月4日（木）に同会会長である東久留米市立中央図書館の島崎館長を座間理事長、堀事務局長、齊藤理事が訪ね、挨拶と多摩デポの紹介を行った。第2回ライブラリアン講座のチラシを持参し、近く開催される館長協議会の例会に出向いて、館長全員への講座の紹介とチラシ配布をする許可をお願いした。
 - ・また、同図書館から提供の申し出があって、受け取りの募集をかけていた「里親探し」の提供本（『日本国語大辞典』第2版 揃い）が、多摩地域内では受け取る希望が出ず、伝手をたどって千葉県いすみ市の公民館図書室で使ってもらえることになった。そのためこの日、現物を同館から引き取った。なお、いすみ市では現在、最初の市立図書館を設置する準備を進めている。
- ② 「里親探し」本の配達
- ・東久留米市から提供された「里親探し」本を、7月9日（火）にいすみ市の公民館に

届けた。

- ③ 館長協議会例会（全体会）での多摩デポの説明とライブラリアン講座の紹介
 - ・ 7月10日（水）に都立多摩図書館で行われた同会に行き、会の冒頭の10分間で、出席していた館長に案内チラシを配り、説明を行った。
- ④ 第2回多摩地域ライブラリアン講座の受講者募集の開始
 - ・ 内容が確定しチラシが完成したので、7月初めに会員MLで募集開始の第一報を流した。主な対象は現役職員である。館長協議会でも紹介し職員への周知を依頼したことで、今年度の募集が動き出した。募集締切は8月31日（土）。講義開始は9月5日（木）。
- ⑤ 府中市立図書館の蔵書目録中、I S B N未記載の書誌データへの機械的推定と検証事業・昨年度の児童書の作業でボランティアをしてくれた方への報告と意見交換会
 - ・ 7月12日（金）午後7時からZOOMで開催した。10名のボランティアのうち7名が参加（1名は文書で参加）。報告会の実際の開催が大変遅れたが、皆さん寛容で、この作業の珍しい経験を面白がられた意見・感想をいただいた。感想は『多摩デポ通信』にも寄稿してもらった。出された意見は、次のマニュアル作りや、ボランティアへのフォローの仕方に生かしたい。何人かの方は、次回の作業への参加を申し出てくれた。
- ⑥ カーリルとの共同研究定例会（第77回）
 - ・ 7月23日（火）午後8時からZOOMで、久しぶりに開催した。府中市の蔵書目録中、I S B N未記載の書誌データへの機械的推定と検証事業の、次に取り組む予定の一般書の作業の打ち合わせが主な議題だった。
- ⑦ 『多摩デポ通信第68号』の発行・発送
 - ・ 7月29日（月）に印刷・発行した。それに同封し、第2回多摩地域ライブラリアン講座のチラシを会員と多摩地域の図書館へ送付した。多摩デポ総会時の田中久徳氏の講演、ライブラリアン講座、府中市の蔵書目録のI S B N推定事業、『都立中央図書館50周年記念誌』から見る都立図書館の資料保存方針の変遷など、最近までの主な活動を網羅した内容になった。
- ⑧ 事務局会議（2024年度第8回）
 - ・ 8月2日（金）に行った。

（3） 第3号議案 第2回多摩地域ライブラリアン講座の開催について

【報告】

- ・ 前回理事会での決定に基づき、内容やカリキュラムを決めて準備した第2回講座を、7月初旬からチラシを配って募集を開始した。
- ・ 受講料6,000円、募集定員は12人。応募締切は8月31日（土）、9月5日（木）に講義を開始し、おおよそ来年2月までのスケジュール。

- ・応募資格は、多摩地域の公立図書館の仕事に従事する者、及び「多摩デポ」会員。
- ・前は盛り込めなかった「地域資料のデジタル化」に関する講義を保坂理事の担当で入れることができた。
- ・現在、各講師が講義コンテンツを作成されているところである。
- ・初開催の前は受講者にはおおむね好評、そして『多摩デポ通信』に2人の受講者の感想を掲載できた。しかし今回は、まだ応募者がいない。
- ・多摩地域の公立図書館での司書有資格者の職員募集は、多くの市では三十年前くらい前から行われなくなり、50代未満の有資格者は稀になっている。専門的な研修についての話題を職場でフランクに話せる基盤も少ないと推測される。
- ・勧誘のため、7日、8日には多摩地域の図書館を回る予定である。

【討議】

- ・反応が鈍いようだ。こういうチラシが館内で回覧されることは刺激があると思うが、講座は実際に受けてみないと分からない。そこを突破したい。
- ・図書館員の専門性はまだ断続的につながっている。捨てたものではないと思うので、粘り強く勧誘してみる方がいい。
- ・地域の公共施設の建替や再配置が各市で始まりつつある。対象となる図書館、公民館、児童館、学童保育所などの合築が検討される。各施設の新たな機能や面積が検討されるが、運営形態も議論になる。全体の指定管理化を検討する自治体もある。「図書館の民間委託」自体の議論なら問題になるところが、流れの中では、図書館は全体が一つの組織だから一部の館でも指定管理導入は困るというような議論は起こりにくい。こういう状況も背負う今の職員が受講対象者だが、どうにかならないものか。
- ・ライブラリアン講座は今は図書館経営を講義科目にしていらないが、図書館業務を時代に向き合いながら提案していこうという発想は大事なので、地域再編の中で図書館の施設建替や運営をどうするかも切実なテーマでしょうね。
- ・施設の老朽化への対応にベテランが取られてしまうこともあるだろうが、ベテランにも声をかけ、講座に参加してもらいたいと思う。

(4) 第4号議案 府中市立図書館の蔵書目録中、I S B N未記載の書誌データへのI S B N機械的推定と検証作業の今年度の予定について

【報告】

- ・7月23日(火)に開催したカーリルとの共同研究会で今年度の作業段取りが決まった。
 - ・次の「一般書の9門」の作業では、カーリルは(これまでの結果を踏まえ、まず)機械的推定システムを改良し、再度、該当データをシステムにかけ、8月中頃までに多摩デポに提供する。多摩デポは、作業にかかるように準備を進めておく。
- ① 前回の児童書作業で発見したNDLの書誌間違いをリスト化し、NDLウェブサイトの「問い合わせ」→「当館の目録の訂正」に送り、情報提供する。まだ未着手。早急

に進める。

- ② 一般書は I S B N未記載の件数が多く、検証する数も多くなるので、前回より推定確率が高いと予想される数の検証作業にとどめる。（「研究」的に可能性を詰めるより、検証及び府中市の確認作業の手間を減らし、蔵書目録への実装を進めやすい方向で考える）
- ③ 作業マニュアルの改良や、新たなボランティアの募集の準備を行っておく。
- ④ カーリルから8月中旬に機械的推定の結果が送られてきたら、まず事務局内で一定数の試行を行い、マニュアルの整備や作業の手ごたえをつかみ、ボランティアへの依頼や説明に生かす。

※共同研究会での吉本氏との話から

「府中市蔵書の1980年代発行の一般書9門では、I S B N未記載のものは約32000タイトルある。試しに行った機械的推定では、うち10000タイトル程度の推定ができた。②のような方針で、もう一度機械的推定を行えば、7~8000タイトル程度を検証作業の候補にできるのではないかと思う。そのうち今年度は、一般書の第一次検証として、1000タイトル程度を行うという見通しではどうか」

【討議】

- ・報告された方針で了解した。

(5) 第5号議案 『多摩デポブックレット』第17号の編集について

【報告】

- ・年度総会での田中久徳氏の講演を『ブックレット』にする準備を始めている。
- ・講演は3章構成だが、第1、2章は要約し第3章を丁寧に文字化する方針で、おおむね『ブックレット』標準の54ページに収められるのではないかという見通しで作業中。

【討議】

- ・田中氏の講演は、地域の公立図書館群で一度は蔵書になったタイトルをできるだけ残そうと、多摩デポや多摩地域の館長会が行ってきた運動に、全国的な図書館群の俯瞰の視点から、意義や連携の示唆を与えるものだった。できた『ブックレット』を元に、さらにNDLとの連携を考えていければよいのではないか。
- ・ブックレットを元に、NDLとの資料保存の連携を考えていくというふうに話が広がればよい。田中氏に再度講演を依頼し、質疑をすれば、新しい視野が持てるのではないか。あの講演のブックレットを作ることは意義がある。

(6) 第6号議案 今後の多摩デポ活動の広がり作りについて

【報告】

- ① 幅広い参加を呼び掛けられる事業企画の検討・実施について

- ・「ライブラリアン講座」は応募が殺到する状況ではないが、受講した方の手ごたえには意義を感じ、職員の力を高め、多摩デポの支援者を増やすために進めている。
- ・「ISBN未記載の目録にISBNを推定し追加付与する」事業は、TAMALASが使える範囲を広げ、多摩地域の希少タイトルを確かめ保存する事業に繋がる。ボランティア参加者には作業を通じ、活動の意義を感じてもらえる機会になると思われる。
- ・今年度も既に動き出したこれらの事業は、手間がかかり参加者は少ないが、また迂遠のようだが、多摩デポとして意義を見出せる。
 - ・「里親探し」は、近年は応募が少ないが、図書館からの申込みで成り立つ事業。
- ・TAMALASを使った蔵書の希少性の確認は、既に多摩地域で浸透している。
- ・一方で、「多摩デポ講座」や「多摩デポ実践講座」のような、従来から行い、幅広い対象者に向け単発で開催してきた事業が、なかなか提案できなくなっている。具体的な企画が出せない、開催しても集まりが悪い（特に現役職員の参加が少ない）。「コロナ禍以後」の行動様式の変化？現役との世代間のギャップ？
- ・これら定例的事業をどうするか。幅広い方に向け気軽な参加を呼びかける企画を具体化できないか？事務局の討議では、本日は具体的な案を用意できなかった。

② 図書館職員や館長会と連携し、共同保存の足場をどう作っていくか

- ・図書館職員層の厚みの低下や経験の長い館長層の減少の中、館長会との連携、啓発をどう作っていくか。
- ・職員層の多摩デポ活動への賛同者、協力者をどう掘り起こしていくか。
- ・東京都立図書館への働きかけ、話し合いの足場をどう作っていくか。
- ・NDLとの連携の追求。NDLに未所蔵で多摩地域では除籍となる図書の、寄贈方法の開拓、NDL書誌データの誤りの情報提供)

※これら、事務局会議でなかなか前に進まない課題を報告し、意見を伺っておきたい。

【討議】

- ・田中久徳氏がNDLの全国書誌についてどう思っておられるか聞きたい。また、カーリルの吉本氏が出版界の版元ドットコムでやっていることは、我々の中で議論してもいいのではないか。
- ・ブックレットと別に、田中氏の講演会を企画してもいい。どういう日時を選べば図書館職員が来てくれるか分からないが、本当にやってみたい。
- ・私たちには、田中氏の話も吉本氏の話も聞きたいとなりますが、これまでの背景がない若手職員には、すぐに聞きに行こう参加しようとはならない。そこに至る呼び水になることを意識的に重ねていくことが大事なのではないか。
- ・何かしら呼び水になるようなことをするか、何度でも繰り返してやるか。そのぐらいしか思いつかない。逆に、例えばライブラリアン講座に参加した若い人たちに、どういふところが私たちには足りないかと、アドバイスを求めてみるとか。
- ・田中氏の講演は、第3部が現在から未来の話で一番面白い。その面白さを分かってもらえる職員はまだ若手の中にはいないのかもしれない。そこまでたどり着けていない現状

はやはりあって、その溝をどう埋めていくのかは大きな課題だと思う。

- ・「ライブラリアン講座」受講者をいかに巻き込むかですが、修了レポートを多摩デポのホームページで公開したい。レポートは本人の分析と考えて、所属図書館を代表するものではないことを周知するのは当然ですが、受講した成果を発表し、本人にやりがいを持ってもらうとか、次の人の参考にってもらう。それをやりたい。

(7) その他、情報交換

- ・ T A M A L A S 一括処理システムの普及と活用の拡大について
 - ・ 「一括処理」は、ID、パスワードを申請・取得した自治体は12にとどまり、そこからなかなか増えない。活用自治体を増やすのが課題だが、そもそも取得した図書館はどのくらい・どのように使っているのか。手ごたえや評価・反応が分からないので、調査することが課題である。館長会に相談したい。

【報告、討議】

- ・ 館長会の「図書館サービス研究会」会長が三鷹市の館長に交代したのでお会いしてきた。T A M A L A S の活用実態のアンケートの話題を出したところ、以前のアンケートの時は、自分が担当の職員で回答を書いたのでよく覚えているとのこと。「個別処理」は三鷹市も非常によく使っておられた。「一括処理」はあまりご存じでなかったが、「一括処理」普及のために「サービス研究会」でアンケートを取ってほしいとお願いした。会長としては幹事に諮りたいとの返事だった。
- ・ 関連で館長の方から出された話が面白かった。三鷹市で図書館利用調査をしたが、最近10年間に発行された蔵書は使われるが、それ以前のはあまり使われないような結果だったという。一方で、館長席の周りには古い本が積んであった。館長として、職員に除籍を許可した蔵書のうち、破損とか汚損で市民配布には回せないものを捨てられずに取ってあると。取っておきたいが、図書館を運営する立場としては、使われなければ本をそのまま取っておくのは難しい。
- ・ 以前、都立図書館の除籍に危機感を持って、多摩の館長会で作った共同利用図書館構想のことも言われていた。各自治体が毎年100万円を出して保存施設を維持するなんて絶対できないと。多摩デポが提案したのではないが、運動を続けている我々に話しかけてきた。多摩デポのやろうとしていることは理解できるが、しかしその先の答えがないのではないかと何度もおっしゃっていた。
- ・ 多摩デポがどこに向かっているか、どこを落としどころに考えているか分からないという話で、私は、聞いていてそれはもっともかなと思った。T A M A L A S が普及し、多摩地域の多くの図書館が使っているが、その先が職員や館長たちの腑（ふ）に落ちていない。また我々も、きちんと結論は出していないような気がする。
- ・ それから、3万冊を買ったら3万冊をはずさなければ書架に入らない。書庫は一杯なので、書庫入れする手前の少し古くなった蔵書を除籍しているが、それは矛盾していると

話していた。私は、古い本をどの図書館も保存し続けるのではなく、各館で捨てられるものは捨て、どのタイトルでも多摩地域で最後の1冊か2冊は確実に取っておけるようにする仕組みがTAMALASですと話した。こういうやり取りを改めてするのはすごく新鮮な体験で、こういう話をもっときちんとしてほしいと思った。

- ・NDLの蔵書デジタル化の進行は大変重要で、私たちはそれと無関係に、現物の保存図書館を作ればよいと言っているのではない。しかし必要なものはきちっと保存しておきたい。こういう理念的なことは図書館の仕事の経験者なら、誰でも理解できるのではないか。だからその先、具体的にどうするかは、腑に落ちるように対話していかないと。

【多摩デポ関係記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文、記事】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ 事務局会議(2024年度第9回) 8月23日(金)午後8時より、(Zoom会議)
- ★ カーリルとの共同研究 定例会 9月16日(月)午後8時より、(Zoom会議)
- ★ 次回理事会 第6回理事会 10月8日(火)午後8時より、(Zoom会議)

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、田中理事、中川理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024年8月7日

議長 座間直壯

議事録署名人 田中ヒロ

議事録署名人 中川恭一